

## 第 25 回 新潟認知症懇話会

医療法人水明会佐潟荘 医局

3月3日、第25回 新潟認知症懇話会（場所：新潟グランドホテル、共催：エーザイ株式会社）に、会の世話人でもある北村医師が参加しました。一般演題は、新潟大学脳研究所神経内科の野崎洋明先生による「家族性脳血管性認知症の2家系」でした。皮質下梗塞および白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症（Cerebral Autosomal Dominant Arteriopathy with Subcortical Infarcts and Leukoencephalopathy, CADASIL）、皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体劣性脳動脈症（Cerebral Autosomal Recessive Arteriopathy with Subcortical Infarct and Leukoencephalopathy, CARASIL）といった、われわれ精神科の臨床医にとっては少し馴染みの薄い遺伝性の認知症性疾患について、臨床徴候、基本病態から最新の研究まで、分かりやすく解説していただきました。

特別公演は、東京大学大学院医学系研究科 神経内科学講師の岩田淳先生による「エピジェネティクス解析を通じたアルツハイマー病の新規病態解明」でした。エピジェネティクスとは、「DNAの配列変化によらない遺伝子発現を制御・伝達するシステムおよびその学術分野のことで、細胞分裂を通して娘細胞に受け継がれるという遺伝的な特徴を持ちながらも、DNA塩基配列の変化（突然変異）とは独立した機構（脳科学辞典）」です。エピジェネティクスのアルツハイマー病への応用研究の第一人者である岩田先生による、多数の未発表データを含めた最先端の講演内容は大変高度なものでしたが、臨床家にとっても非常に興味を引く内容でありました。創薬への展開が大いに期待されます。